

平成 31 年 3 月 14 日
気 象 庁

3月23日は世界気象デー

～今年のテーマは「サン（太陽）・アース（地球）・ウェザー（気象）」～

世界気象機関（WMO）は、1950年（昭和25年）3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念し、毎年3月23日を世界気象デーとして、気象業務への国際的な理解促進を目的にキャンペーンを行っています。

今年のテーマは「サン（太陽）・アース（地球）・ウェザー（気象）」です。

【WMO 事務局長のメッセージ】

太陽は地球からおよそ1億5000万キロメートル離れたところに位置し、地球は、これによって生命にとって暮らしやすい環境に保たれています。太陽からのエネルギーは、気象、海流及び水循環の原動力であり、地球上の生命にとって欠かすことができません。

近年、地球の温暖化が問題となっていますが、その原因については、太陽から放出されるエネルギー量は過去30年間増加しておらず、太陽活動の変化では説明できません。この地球温暖化は二酸化炭素等の温室効果ガス濃度の上昇によってもたらされたものです。

現在の温室効果ガス濃度の上昇傾向が続くと、今世紀の終わりまでに世界の平均気温は3～5℃上昇するおそれがあります。地球温暖化が進むと、世界各地で熱波、局地的な豪雨、干ばつの頻度が増加することが予測されており、我々の健康、生活、食料、水資源、安全保障、経済成長などへのリスクが増すことが見込まれます。

気象や気候がどのように太陽により影響を受けるかを理解することは、強靱な社会の構築を目指すWMOの中核ミッションにとって重要です。このようなWMO及び各国気象機関による地球で起こる気象、気候、水文、海洋及び環境に関する最良の科学及びサービスは、各国を支援しています。

WMOによる特設ページ（英語）：

<https://worldmetday.wmo.int/en>

【気候変動対策への気象庁の取組】

気象庁は、WMO のデータセンターとして世界の温室効果ガスの観測データを収集・提供する役割を担っているほか、WMO などとも連携して気候変動に関わる観測や予測を行っています。また、国内においては、観測や予測により得られた知見を、地域の気候変動適応計画の策定等の気候変動対策の基盤となる科学的情報として提供しています。今後も気候変動の監視と予測を強化し、WMO など国際機関や国内の機関とも連携して気候変動対策に貢献してまいります。

(参考) 気象庁ホームページ

地球環境・気候 <https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/menu/index.html>

大雨や猛暑日などの変化 https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html

世界気象機関 (World Meteorological Organization : WMO) の概要

設立目的 : 気象業務に関する国際的な調整・標準化・改善や、
気象情報の交換促進

設立日 : 1950 年 (昭和 25 年) 3 月 23 日

事務局所在地 : スイス・ジュネーブ

加盟構成員 : 186 か国・6 領域
(我が国は 1953 年 (昭和 28 年) に加盟)

ホームページ : <https://public.wmo.int/en>



問合せ先 : 総務部企画課国際室 担当 小川

電話 03-3212-8341 (内線 2267) FAX 03-3211-2032